

未来に向かって

小田原市支部 山田 和子（妹）

戦没者 山田 勇造

戦没地 フィリピン

戦後六十五年になり、神奈川県遺族会の妻の方はじめ、遺児の皆様の記事が事業部と女性部の人達による本が出版される事になり、年月の過ぎ去った思い出が夢のようであります。

小田原でも、平成十九年五月に六十年史が発行され、譲原会長はじめ当時の小澤市長と議員の皆様方や僧侶の方々のお言葉をいただき、又、二十四支部の遺族の思いを記事にしていただきました。

妻の方は、幼い子供を育てながら夫の帰りを待ち望んでいた事でしょう。終戦になり帰ってこないと知らされた時は涙を流し悲しまれた事と思います。でも、その親の姿を見て育っているの で心の強い遺児になっているのではないのでしょうか。

現在、役員の人達と毎月理事会で行事をいろいろと決め実施しております。年々遺族会を辞める人も出て来て少なくなりました。妻の方々は高齢者で老人ホームへ入っている方や亡くなられた方など、数年前とは大分変わってきております。でも、靖国神社には毎年春には小田原市ではバ

スが七台出て参拝しております。

市の慰霊塔や二十四支部にある忠魂碑なども参拝し、安らかに眠って下さいと祈っております。その気持ちが大切でいつまでも忘れないで下さいと言いたいです。

今、当時の事を忘れがちですが、あらためて振り返り六十五年もたち思い出が浮かぶ気持ちになりました。

これからの若い人達にも伝えていかなければいけないと思います。ずっと平和で良い日本を築き上げて行ってもらいたいと政治家の方々に申し上げたいです。

靖国の さくら満開 咲きほこる 体で感じる ここちよさかな

過ぎ去りし 戦後に思う 食料の 今考える 未来食なり

過ぎ去りし 六十五年 今平和

今もなお 忘れられない 戦時中

日本国 皆んなの苦勞 思い出し